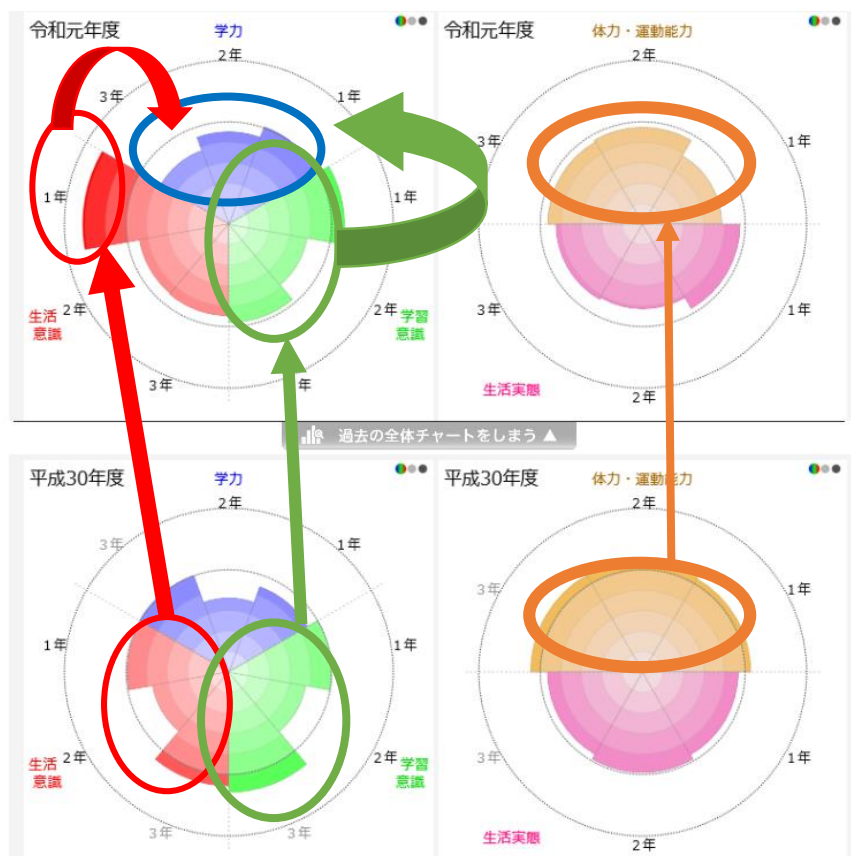


令和元年度 横浜市学力・学習状況調査 分析について

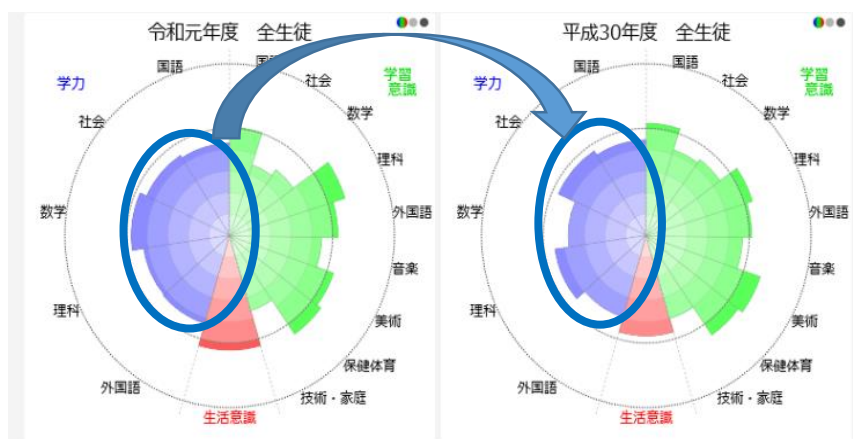
1 全体より

(1) 学校全体(平成30年度との比較) 学力・体力・生活意識別



- ①生活意識・学習意識にポジティブな変化がみられる。しかし、全体の学力は依然と市の平均を下回る状況である。
- ②体力・運動能力をみると全学年とも、平成30年度に比較すると数値が下がっており、数値も市の平均を下回っている。

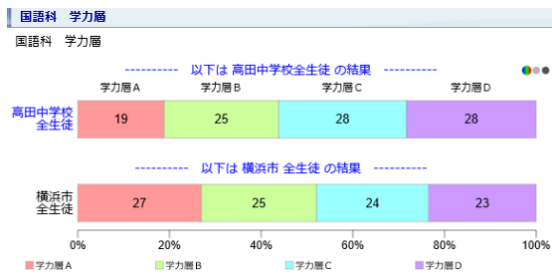
(2) 学校全体(平成30年度との比較) 各教科学力・各教科学習意識・生活意識全体



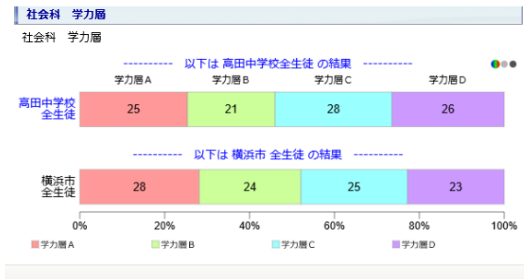
- ①各教科の学力を見ると、全教科とも市の平均を下回る状況である。全体で見ると、多くの教科をみると数値をのばしている。その中で、数学科は、市の平均に近づいている。
- ②学習意識を見ると、社会科と技術・家庭科、数学科が市の平均を大きく下回る状況である。

### (3) 各教科より

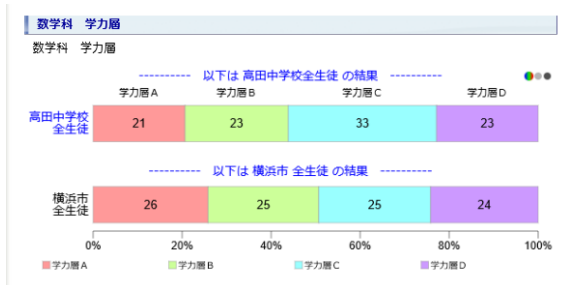
#### ①国語科



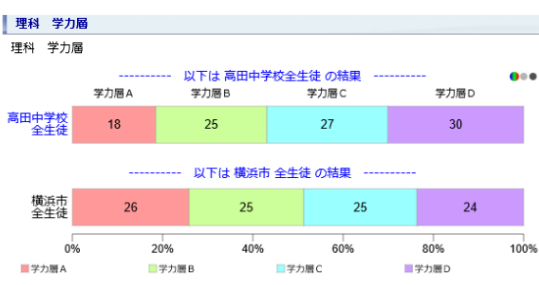
#### ②社会科



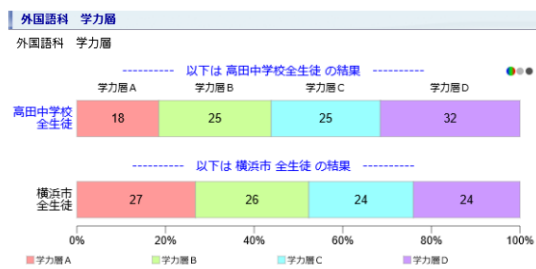
#### ③数学科



#### ④理科



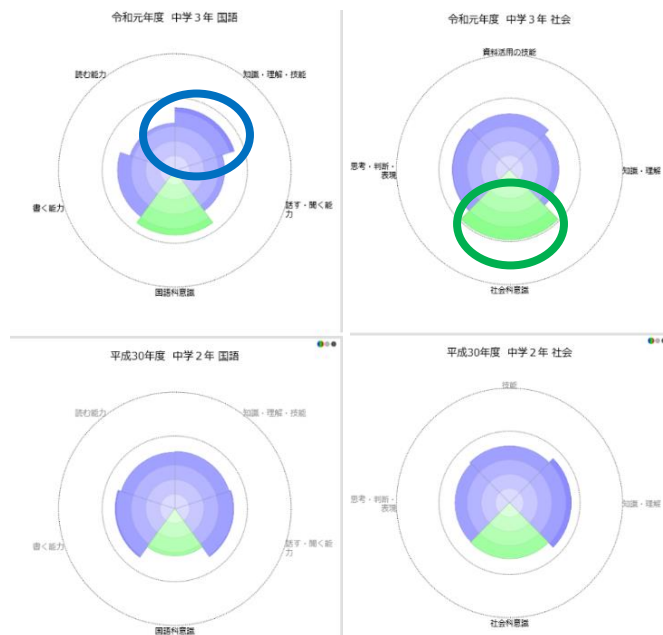
#### ⑤外国語(英語)科



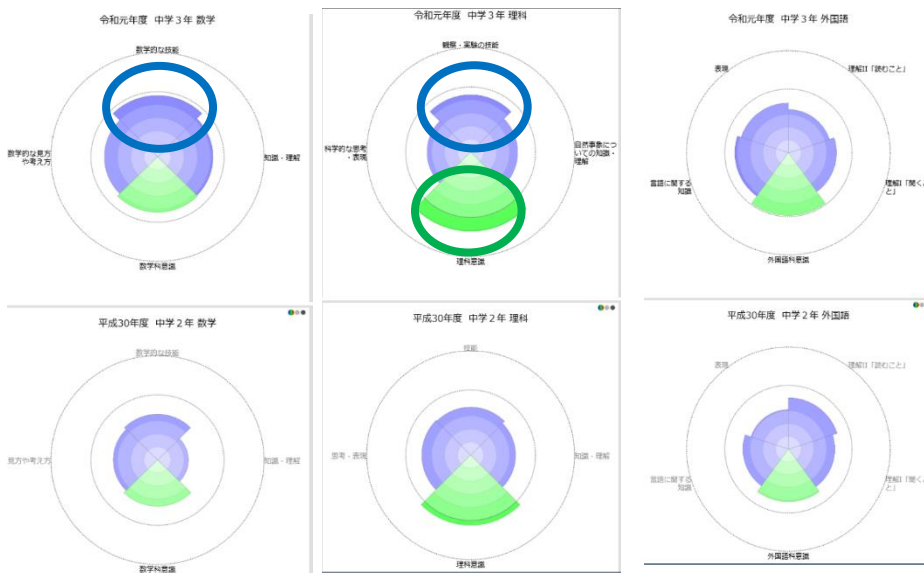
国語科・社会科・数学科において、学力層Cが一番分布が多く、理科・外国語において学力層Dが一番多いことが分かる。

### 2 各学年(経年変化を含む)より

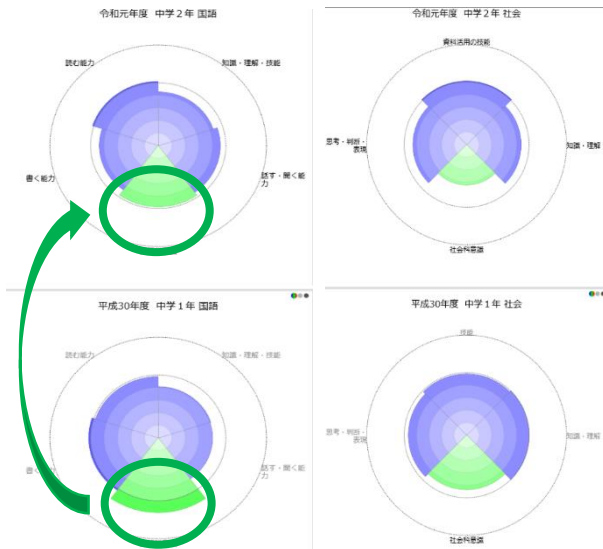
#### (1) 3 学年



全教科とも各観点が、市の平均を下回っている。しかし、前年度比較で多くの教科で達成率が上がった傾向にある。数学科「技能」、国語科「知識・理解・技能」、理科「技能」などでは市の平均に近づいている教科・観点もある。学習意識の経年変化を見ると、各教科ともよい変化を見せており、特に理科は市の平均以上である。

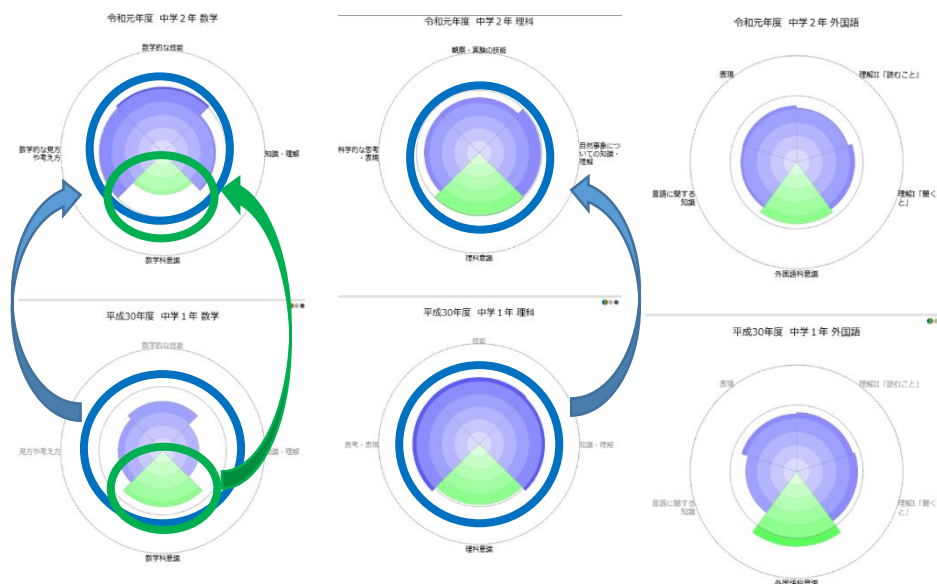


(2) 2 学年

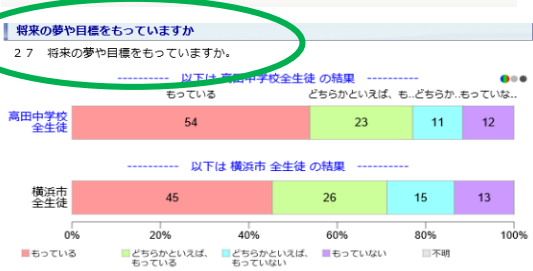
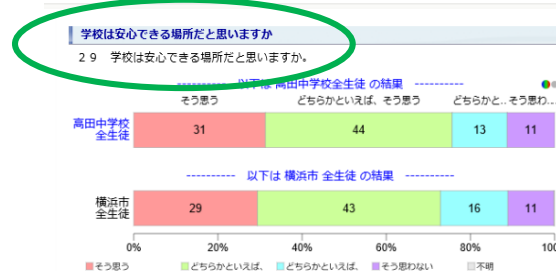
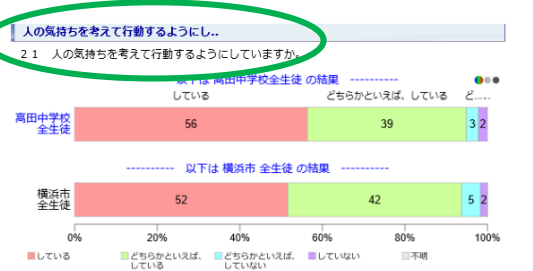
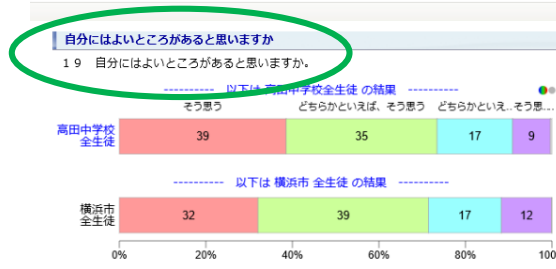
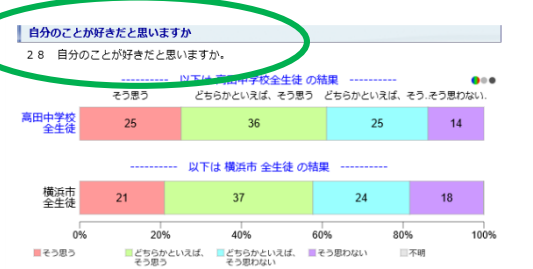
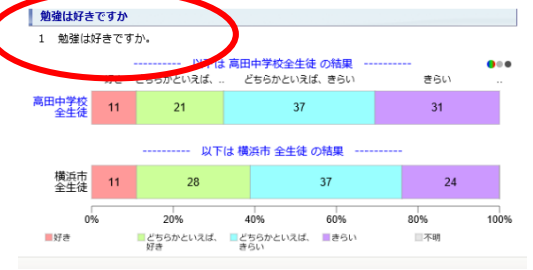
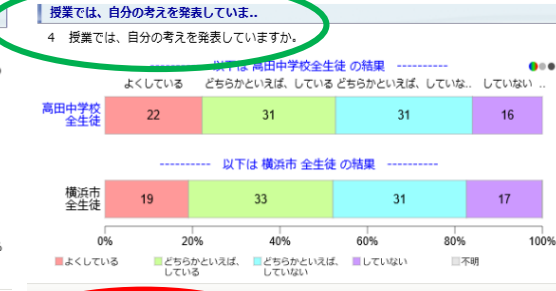
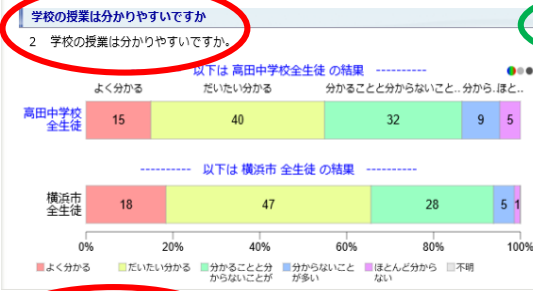


経年変化で見ると、数学が前年度と比較すると達成率が全体的に上がっている。反対に、理科では前年度との比較で達成率が全体的に下がっている。

また学習意識を見ると、理科以外の4教科で前年度との比較で下がっていることが分かる。



### 3 生活調査から



凡例

○ 市の平均を下回る項目

○ 市の平均を上回る項目

- 「授業は分かりやすいですか?」「勉強好きですか?」「1日にどのくらい勉強しますか?」では、市の平均を下回る状況である。
- 「授業では、自分の考えを発表していますか?」「自分のことが好きだと思いますか?」「自分には良いところがあると思いますか?」「人の気持ちを考えて行動するようにしていますか?」「将来の夢や目標をもっていますか?」「学校は安心できる場所だと思いますか?」では、市の平均を上回る状況である。

#### 4 分析から見える課題と成果

- (1)高田中学校の生徒は、学習意識や生活意識の高さに対して、学力が市の平均を下回る状況である。
- (2)国語科・社会科・数学科・理科・外国語(英語)科では、学力C・D層が一番多く、今後の授業改善で、学力C・D層の生徒の「基礎的・基本的な学習内容の定着」を意識した取組が重要である。
- (3)生活調査から「学校の授業が分かりやすい」と感じている生徒が少なく、かつ「勉強は好き」と思っている生徒は少ない。また家で勉強する(家庭学習)習慣が身に付いている生徒も少ない。
- (4)「授業では、自分の考えを発表している」と思う生徒は多く、これまでの研究主題であった「表現力の育成」は、生徒の変容につながってきている。
- (5)「自分のことが好きだと思う」「自分には良いところがあると思う」「将来の夢や目標をもっている」生徒が多く、自己肯定感の高さがうかがえる。
- (6)「人の気持ちを考えて行動する」「学校は安心できる場所だと思う」生徒が多く、「自他を尊重し、よりよい社会の実現に向けて実践できる生徒の育成」や「生徒の心情に寄り添った指導」の成果が出てきている。

#### 5 今後について

- (1)中期学校経営方針 重点取組分野「生きて はたらく知」にある「わかる」「主体的・対話的で深い学びができる」授業への改善、本校の研究主題「生徒が主体的・対話的で深い学びを感じる学習指導に関する実践研究」をすすめるために、この分析を活かしながらの各教科での実践研究が必要となる。
- (2)「わかる授業」への改善に向けて、以下の工夫を実践してみる。
  - ①生徒が主体的に学習を見通し(学習課題の明示)、振り返る(まとめ)場面を設定する
  - ②知識の習得、活用・探求の場면을計画的に設定し、生徒が新しい課題の発見、深い知識の習得(概念の習得)へつなげる授業づくり
  - ③知識の習得(意味の理解)➡活用・応用(意味を広げる)➡振り返り(章末問題)の設定する
  - ④身近な実生活とのかかわりの中で、学習内容の知識や技能の習得が実感できる場面を設定する
  - ⑤個別学習・繰り返し学習でICTの活用を取り入れる
- (3)「基礎的・基本的な学習内容の定着」にむけて、以下の工夫を実践してみる。
  - ①ワークシートや振り返りカードを活用し、学習内容の到達状況を可視化し、生徒自身が把握できるような工夫
  - ②小テストを定期的実施し、生徒が学習の成果を実感できるような工夫
  - ③ラーニング・ピラミッドを活用し、「グループ討論」や「自ら体験(実践による経験・練習)」、「他の人に教える」などを取り入れた授業づくり
  - ④個別学習・繰り返し学習でICTの活用を取り入れる